様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：６２６０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１３１１０

研究課題名（和文）学童保育の「質」の検証・評価の手法開発に関する試行的研究

研究課題名（英文）Developing Evaluation Methods of After School Child Care Practice in Japan

研究代表者
橋本　昭彦（Hashimoto, Akihiko）

国立教育政策研究所・教育政策・評価研究部・総括研究官

研究者番号：８０１８９４８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：Ⅰ．協力者の及川房子氏（元学童保育指導員）の20年以上に渡る実践史料を整理して『及川房子学童保育実践史料目録（稿）』を作成した。Ⅱ．同じくご協力頂いた姫路市立飾磨学童保育所からの提供資料を元に、児童育成の成果を評価しうる作文集や演劇発表を電子ファイルにまとめた。Ⅲ．及川実践や代表者の実施したアンケート調査結果等を総合して『学童保育実践の評価手法試論』を作成した。Ⅳ．及川房子氏の人脈（元同僚、元教え子、元父母会役員等、及川実践に関心を持つ研究者等）を組織化して、本研究終了後も継続する協力組織を確立し、史料研究や学童保育評価の研究が推進される社会的な基盤を作った。

研究成果の概要（英文）：Main attainments of this research project are as follows;
1) Issued "Catalogue of Historical Materials Relating to Fusako Oikawa’s After School Child Care Practice (Draft)", which contains information of primary materials produced and/or preserved by Ms. Fusako Oikawa, ex instructor of an after school child care center. 2) Compiled electric records of the evaluation methods seen in the Shikama Gakudo Hoikusho, an after school chid care center at Himeji city, Hyogo prefecture. 3) Issued "Evaluation Methods of After School Child Care Practice in Japan", as a compilation of evaluation methods of after school chid care programs. 4) Created a semi-permanent group that will work to preserve the thoughts and deeds of the for-runners of after school chid care, utilizing the human network of Ms. Fusako Oikawa.

研究分野：教育学

キーワード：学童保育　実践記録　保育の質　評価

１．研究開始当初の背景

学童保育の評価は、利用者である子どもがどのように変容したか、また子どもを取り巻く大人や社会がどのような影響を受けたかによってなされる、と考える。

この 20 年ほどの政府の子育て支援政策の刺激もあって、学童保育・児童館などの児童福祉事業においても、事務事業評価や施策評価などが多く実施されるようになった。但し、それらは主に行政上の要求を満たすことが目的の評価であって、保育の条件や保育の質の維持・向上などに直結する評価になっているかどうかは確かではない。

既存の「評価」の手法をみると、東京都下の学童保育の場合、「（あそびの広場の）施設及び園庭開放」の状況（狛江市、H.17）や、「総コスト」「延べ出席児童数」「延べ登録児童数」「児童出席率」（武蔵野市、H.18）、「定員増に向けた整備」の状況（小金井市、H.25）、などというように、管理データを指標や根拠とする評価が多い。

そこで、申請者は、学童保育における「保育サービスの質」などを評価するための指標や評価方法を開発しよう、という発想で研究を文書史料による学童保育評価へと転進させた。

２．研究の目的

本研究は、学童保育の実践を正当に評価する手法についての問題提起をするために実施した。

当初、本研究の目標は、代表者をはじめとする首都圏の学童保育関係者が、経験的・慣習的に開発・実施してきた子供の「やめない率」調査（＝児童在籍状況調査。拙編著『民間委託で学童保育はどうなるの？』参照）を追実施することによって、学童保育の質の評価手法としての妥当性を確かめたり、評価手法としての完成度を高めたりすることを主としていた。しかし、研究の実施途上でその調査法が現場実践への負の影響をもたらすという一部研究者からの指摘を得て、本研究の内容も数値的な評価法の追究を一段落させて、他の質的な評価方法を模索することに重点をシフトさせた。

質的な評価方法を考究するにおいては、とりわけ、学童保育の元指導員・及川房子氏らの保有する文書資料や絵画・作文などの児童作品などからなる 20 年余にわたる実践資料の蓄積が、学童保育実践の目的～手段～評価のサイクルを包含した、学童保育の質的評価に利用できる史料群であることに着目した。同史料群の整理・分析によって、過去の学童保育実践の質の評価を実施する手法を抽出することを本研究の後半期の目標に据えた。

３．研究の方法

研究目的によって、本研究実施期間の前半と後半で、用いる研究方法には違いがあるが、そのことが結果的には、学童保育の質を評価する様々な方法を実験的に実施、方法や功罪を検討することを可能にした。以下、方法別に列挙する。

１）「児童在籍状況調査」（通称「やめない率」調査）
・［20xx 年度の１年生の数ｎ］で、［20xx+2 年度の３年生の数m］を割った「残留率」
・継続して子どもが通えること＝保護者が納得する「質」「効果」の指標である。

２）保護者対象「満足度・優先度アンケート」
・現段階のナショナルスタンダードである全国学童保育連絡協議会作成の「運営基準案」に準じた１０分野５６項目。自由記述も１１欄。他地域でも使える「汎用性」を意識した設計。
→東京都以外の自治体においても実施（他県からも打診あり）

３）文書等を利用した学童保育評価（１）
・及川房子氏の所蔵資料「及川房子学童保育実践史料」を利用する。
・史料群の中の「年間計画」「お便り」から、年間の保育計画（目標と方法）を抽出して、それらが目指した児童像を明確にする。

４）文書等を利用した学童保育評価（２）
・アメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス市の学童保育政策と市政に近い団体の活動にねざす学童保育事業の自己点検の事例を調査した。関係者とは、本研究代表者がワシントンＤＣで 2013 年に開催されたアメリカ評価学会（AEA）で東京都小金井市の学童保育父母会組織による学童保育評価活動について報告した際に知己となり、課題意識を共有する部分が多いため、相互に協力しあってきた。

４．研究成果

１）「児童在籍状況調査」（通称「やめない率」調査）
・「安全」についで、保護者の願いであると思われる「継続して通うこと」をどのくらい実現できたか、ということを表す指標として、現場関係者（指導員、保護者、自治体職員）などからも支持を得る簡易な指標として、一定の注目を集めた。また、「やめない率」が

高い自治体では、学童保育の職員の身分が、概して保証されている（常勤職員であること）傾向があることを明らかにすることができた。
・明らかにできた主な事項は以下のとおりである。

１）－１　計算の仕方による変動
ａ．計算する時点：４月１日か、（現）５月１日か、・・・・３月３１日か
ｂ．数える子どもの決め方
ｂ－１：途中入所の児童を、区別して含めないか、（現）区別しないで含めるか
ｂ－２：数字の出所は、東京都の統計書か、区市役所の窓口か、個々の学童保育所か
ｂ－３：新増設による定員増の分を、分けて処理するか、（現）分けないで目をつぶるか

１）－２「やめない率」が高いと保育内容が「良い」学童なのか？
ａ．引越しや転勤族が多い学区だったら「やめない率」は、下がる
ｂ．同居親族、次子の育児休暇などの家庭の都合で「やめない率」は、下がる
ｃ．一年生を優先するために、上級生の継続が難しい自治体だと、「やめない率」は、下がる

１）－３「やめない率」の使いみち
ａ．数字の「わかりやすさ」を方便として使う　→ゆっくり話を聞いてもらいにくい相手に有効
ｂ．高い「やめない率」→投資の「有効性」の「証明」になる
ｃ．低い「やめない率」→投資の「不十分さ」、「低い理由の調査」へと議論を誘導できる
ｄ．使えない場合→　「使わない」。回避する

１）－４「やめない率」とその他の指標
ａ．指導員「待遇」（正規　／　嘱託・非常勤／パート・臨時職員）との相関
→曽我信也（小金井市学童保育連絡協議会）氏の資料では、高い相関関係が見える
表：東京・三多摩地区各市町学童保育の運営形態等と「やめない率」
表：東京・三多摩地区各市町学童保育の「指導員の待遇」等と「やめない率」

１）－５　可能な立論：
ａ．「指導員の待遇」が厚いと、児童の「やめない率」が高い
ｂ．児童の「やめない率」の高さと「保護者アンケート」における保護者の利用満足度の高さは、相関関係にある
ｃ．指導員の待遇を良くすることが児童や保護者の満足度の高さや学童保育の質の向上に影響を及ぼしている可能性がある

・東京都以外の一部自治体においても実施。米国ロサンゼルス市教育委員会などからも照会があった。
・成果を感じられた一方で、この数値は、児童や家庭の状況に左右されるところが大きいことと、正規職員比率や職員退転率などの様々な要素が影響する数値なので、調査結果の一人歩きに警戒する必要がある。特に、児童が辞めることで指導員が責任追及の矢面に立たされることが考えられることから、数値を出すことの副作用が警戒される。

２）保護者アンケートの満足度の高い自治体では、「やめない率」も高いという仮説を得るまでには至ったが、追実験には踏み出せなかった。

３）実践史料を利用した学童保育評価
・及川房子氏の所蔵する学童保育に関する１次資料を整理して『及川房子学童保育実践史料目録（稿）』を作成した。
・当該年度に在籍した児童の書いた作文や絵画や、指導員の刷る「おたより」（通信）において見られる児童像を比較し、めざした児童像の達成状況を推量する手法を編み出した。

４）カリフォルニア州ロサンゼルス市の学童保育評価の事例を”Self Evaluation Toolkit”とともに日本語で紹介した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計２件）

・橋本昭彦「学童保育の質の数量的指標についての多面的考察（２）－「やめない率」による自治体間比較の得失－」（2015年５月、日本学童保育学会）

・Akihiko HASHIMOTO, “Instant index : The <Un-quitting rate> of Out-of-School-Time (OST) Child Care Centers in Japan.”(2015.11. American Evaluation Association, Annual Conference.)

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
橋本　昭彦（HASHIMOTO Akihiko）
国立教育政策研究所・教育政策･評価研究部・総括研究官
研究者番号：80189480

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
糸山　拓輝（ITOYAMA Hiroki）
及川　房子（OIKAWA Fusako）
林　　美雪（HAYASHI Miyuki）